

明日へ。 東北の息吹

東日本大震災から
— 2011〜2014 —

東日本大震災からまもなく4年になります。千年に一度ともいわれる未曾有の大災害は、自然災害にとどまらず、原子力発電所のメルトダウンによって日本を、世界を震撼させました。多くの命が失われた大災害。家族や親しい人たちの離別、そして故郷をも失われた人たちの苦しみは今も続いています。復興への道のりはまだ遠いですが、それでも、各地に復興商店街ができ、店舗の営業、事業の再開、仮設住宅から新居へ。少しずつ明るい話題も聞かれるようになりました。「がんばっぺ」「いつか、また」「必ず復興するから」と。

被災地で出会った人々から教わったことは、人間の生きる強さと、どんな時も相手を気遣う優しさ、そして日常の大切さです。倒壊した家屋の側でおいさんが畑を耕していた光景は今も忘れられません。「こういふときは食べるもんが大事。今植えれば6月には収穫できるから」と、せつせとジャガイモを植えていらっしやいました。生き抜くことの大変さの中にも、明日への希望をつなぐ姿でした。そんな姿を、立ち上がる東北の元気を、少しでも記録したい。そう願いながら撮影を続けてきました。あの日、突然失った日常を、その大切さを忘れないために。

力強い東北の復興を願って。明日へ。



榎並悦子 (えなみ えつこ)

京都市・西陣に生まれる。大阪芸術大学写真学科卒業後、岩宮武二写真事務所を経てフリーランスとなる。国内外を旅することが大好きで「一期一会」の出会いを大切に、人物や自然、風習、高齢化問題など、幅広いフィールドをしなやかな視線でとらえ続けている。主な写真展に、視覚障害者が暮らす老人ホームの日常をとらえた「都わすれ」、東京の下町を撮った「裏から廻って三軒目」、高齢化率日本一の町を取材した「日本一の長寿郷」、富山県の民謡行事「おわら風の盆 宙舞う風の旋律」、中国の人や空気をとらえた「今日の旅心、明日の合い言葉」や「秒速50センチの東京」、「Paris一刻の面影」、「ランデブー Avec lumière et une ombre de Paris」など。主な写真集、著作に「都わすれ」、「日本一の長寿郷」、「越中おわら風の盆」、「秒速50センチの詩」、「HALA BIRA〜大地を揺るがすフィリピンの祭」、「パリの宝石箱 Bijoux de Paris」、「榎並悦子のマルテク式極上フォトレッスン」「明日へ。東日本大震災からの3年-2011-2014-」などがある。アメリカに暮らす小人症の人々を取材した写真集「Little People」で第37回講談社出版文化賞写真賞受賞。公益社団法人日本写真家協会会員。一般社団法人日本写真著作権協合理事。www.e-enami.com

ナガサキピーススフィア員の火運動

「ピーススフィア」は「平和な球体」、「貝の火」は慈(いつく)しみの大切さを描いた宮澤賢治の童話に由来、「地球の平和」をイメージしています。歌手さだまさしの提唱で1995年発足、今年20周年を迎えます。「平和情報の発信」と「平和ネットワークの構築」を目的として、ナガサキピースミュージアムを拠点に全国で広報活動を展開しています。活動は会員とボランティアに支えられ、「未来の子どもたちに平和な地球を！」をモットーに平和を発信しています。



写真集・絶賛発売中

「明日へ。東北の息吹
東日本大震災からの3年
— 2011 - 2014 —」

A5判 240ページ
定価2,200円+税
発売・朝日新聞出版